

●とびっくす●

第1回 鳴門市「ユニバーサルデザイン点検会」

鳴門支部 河村 勝

3月11日14時46分18秒に東北地方太平洋沖地震が発生し、このたびの地震により亡くなられた方々に慎んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された地域の方々に心よりお見舞いを申し上げます。

この地震の全容がわからない状況の中、開催をすることを決定し、その2日後の3月13日日曜日9時30分～16時30分に、第1回 鳴門市「ユニバーサルデザイン点検会」を開催しました。

この事業は、平成22年度建築士会活性化事業の1つとして、鳴門支部青年部が手を挙げ主催となって、バリアフリーデザイン研究会に協力をいただき、活動をしてきました。徳島県は、ユニバーサルデザインのまちづくりを積極的に推進しており、建築士会としても、このような動きに関する啓発活動の一環として、多くの住民が日常利用する公共施設を、高齢者・子どもたち・障害者などの視点で、だれにでも使いやすい公共施設かどうかを点検し、ひとにやさしいまちづくりの普及と進展に役立ちたいと考えております。

今回、建築士会が主催となってこの点検会を開催しますが、実施体制の基本姿勢として、鳴門市の各課それぞれが主体事業として取り組み、それぞれがアピールしてもらうことを説明、また、行政とのネットワークづくりに力を注ぎ込んできました。

点検施設は、鳴門市文化会館・老人福祉センター・青少年勤労ホーム（3施設2棟）+親水公園。鳴門市民の参加者は、高齢者の方4名、車いす使用車の方3名、視覚障害者の方4名、鳴門市第二中学校の学生さん4名、鳴門工業高校の学生さん4名、鳴門教育大学の学生さん2名、徳島大学建築サークルAUTの学生さん6名+介護者・ガイドヘルパーさん5名、徳島県保健福祉部地域福祉課3名、鳴門市まちづくり課1名、鳴門市長寿介護課1名、鳴門市社会福祉課2名、鳴門市教育委員会教育課1名、鳴門市第二中学校教頭1名、建築士会メンバー17名。計59名、多くの方に参加していただきました。

午前は、4グループに分かれ、参加者のみなさんと施設および外部空間を点検しました。

お昼ごはんをみなさんといっしょに、和気あいあいで



親水公園の点検のようす

楽しみ、午後には、ワークショップ形式で、点検した内容について、グループごとに参加者の意見をまとめ、改善案を含め発表していただきました。ミッションとして、健常者の方にも車いすを体験してもらい、普段気にしていなかったことが、いくつか不便と感じたという意見が多く挙げられ、また、各自みなさん、いろいろな視点で点検をしていただき、ほんとうに、だれにでも使いやすい施設にしたいという思いが感じられました。



意見が飛びかったワークショップ

今回は、第1回ということで開催し、反省点もいくつかありますが、無事に終わることが出来たのは、関係者みなさんのご協力だと思っています。ありがとうございました。この点検会の報告書を、参加者のみなさんにお配りする予定にしています。詳しい報告発表は、またの機会にいたします。平成23年度も引き続き、第2回目の開催ができるよう、がんばっていきます！！

おじん・おばんに何が出来たか？

自主研究グループ「セピア」

東日本大震災の惨状は目を覆うばかりです。

大自然の中での、人間の力の限界を知らしめました。

しかし我々は日々の営みの中でこの試練を克服していかなければなりません。日本人ひとり一人の力の結集が必要なきではないでしょうか。

さて団塊の世代以上の会員で組織する、自主研究グループ「セピア」は、建築士会の活性化を図るため、何かお役に立てないかとの思いで結成いたしました。

昨年7月より毎月1回の定例会を持ち、時には真剣に、時には楽しく話し合いを続けているところです。

私達の年代は、古き良き時代の残像と、老いて行く現実の狭間の中で、未だ人生を達観出来ないもどかしさを感じている人達が多いのではないのでしょうか。

その様な思いもある中で結成された「セピア」は建築という共通の世界を通じて、緩やかな人間関係を楽しみながら、初期の目的を果たせないかと考えているところです。

前置きはさておき、初年度の事業として、若手建築士の育成を目標とする「科学技術高校への講師派遣事業」と、建築士の資質向上を目的とする「佐那河内小中学校校舎新築工事見学会」を実施いたしました。

科学技術高校への講師派遣

近年、工業高校の建築科、デザイン科を、修学したにも関わらず、建築関係への就労が少なくなっています。

その様なことから、改めて建築の素晴らしさ、果たす役割、等を再認識してもらい、若い建築士の育成を図るため企画したものです。

徳島市都市デザイン室の矢部室長に講師をお願いし、建築等が街づくりにどのように関わりを持っていけばよいかと言ったテーマを、「徳島市街づくりデザイン賞」の実践を通して、説明をして頂きました。建築科の生徒さん達も興味深そうに、熱心に聴講していた姿が印象に残りました。

校長先生の話では、学校としても、従来の学校教育に加えて、外に開かれた教育の重要性を認識しており、建築士会との連携に期待しているとの事であり、今後も継続的な活動の必要性を感じたところです。

佐那河内小中学校校舎新築工事見学会

3月19日、連日の寒さから一転して春の日差しが快い中、見学会を開催いたしました。

佐那河内小中学校は、建築士会が、ワークショップ及びコンペティション等、学校造りに深く関わってきた経緯もあり、その成果を実感したいとの思いから、会員の関心も高く県内外から40名の参加を頂きました。見学に先立ち、佐那河内村の麻植教育長からご挨拶があり、建築士会の協力によるワークショップの成果が学校造りに反映できたこと、また各種補助金の活用により、村の財政負担の軽減を図る中で完成に至った事等の説明がありました。

その後、この工事の設計及び工事監理者である、UN建築研究所株式会社の植村氏、根岸氏から、佐那河内村という自然豊かな周辺環境の中で、地域の文化や独自性を継承するための学校造の基本理念や、主柱を中央に配置し、片持ち梁の先端に鋼管による副柱を設けた特異な構造形式であること等の説明を受けた後、両氏の案内により見学に移りました。

計画内容は、中庭を中心として空間の広がりを持たせた校舎棟と、運動場を弓状に囲い込む木造の学童施設等によるゾーニングプランや、外周廻りの柱に鋼管を用いることにより軽快感を持たせた構造計画、地域産木材の活用等、「地域に根ざした村の学校」のテーマに沿った建築であり、学校建築における一つ答えを読みとることができました。

見学者の感想コメントは、

- ・外部のコンクリート系から一転して、内部は木の空間で優しさにあふれていた。
- ・庇の空間の広がりにより、多様な使われ方が想像でき、楽しくなってきた。
- ・焦点は中庭で、常に目に入る位置にあって、眺めるのが主目的の庭ではなく子供達の遊び場、音楽会等、交流の場になっているのが好印象。
- ・教室や廊下などもゆったりしていて、身近な外部である地面とうまく繋がり、内と外との空間の連続性が生まれている。
- ・村に宝物がひとつ出現した…等々の感想がありました。

しかし何にも増して、UN建築研究所のスタッフの方々のこの建築にかける情熱と優しさが実感できました。

「セピア」では今後もこのような活動を通じて「何が出来るか?」を考えて行きたいと思っています。



科学技術高校への講師派遣



見学会

『ペットボトルのピラミッド製作記』

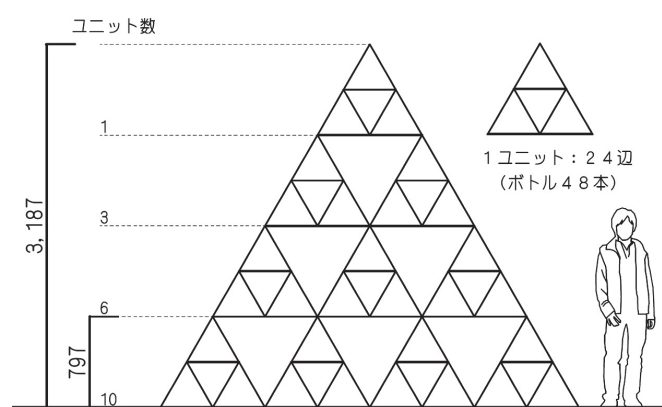
三好支部 松江 純夫

ペットボトルを利用して何か構造物が出来ないかという話が持ち上がったのは去年の三好支部総会の2次会の席でした。青年部のK君と盛り上がり、それじゃ何かやってみようか。ということでこの大プロジェクト？は密かに2人でスタートされました。

ペットボトルを縦に積み上げてオブジェを作っているのはみたことがあるのですが、そこはやっぱり建築士なんだからということで、ペットボトルのキャップを利用してトラス構造物を検討してみることにしました。

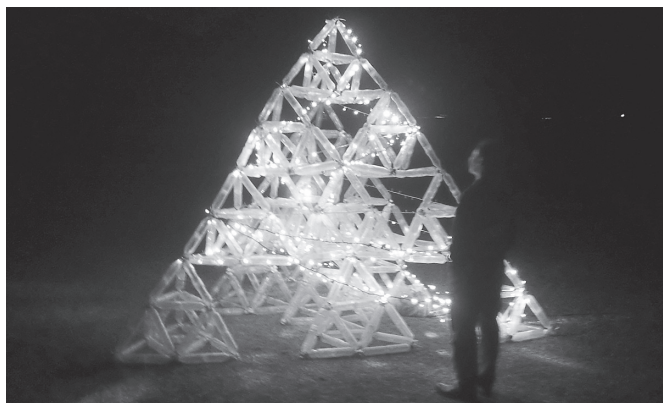
ネットで情報収集してみると、同じようなトラス構造の作品がありました。坂茂氏のペットボトルストラクチャー（結構有名かも）から、ペットボトル・トラスという名前でタワーの高さを競おうという競技（略してペットラ）があったり、学園祭のイベントでの球形のオブジェや、小学4年生がアーチを作ったり、なかなか見事です。こりゃ負けてはおれんなあ。

まず、ひと夏かけて500mlのボトルを約750本集めました。次は構造です。今回のオブジェは屋外展示したいので、特に問題になるのは耐風性なのですが、どうしようかなと悩んだ末、そこはO型。1回作って見たらわかるかも～ということで実験。今回の実験モデルはピラミッド形で高さ3m程度です。



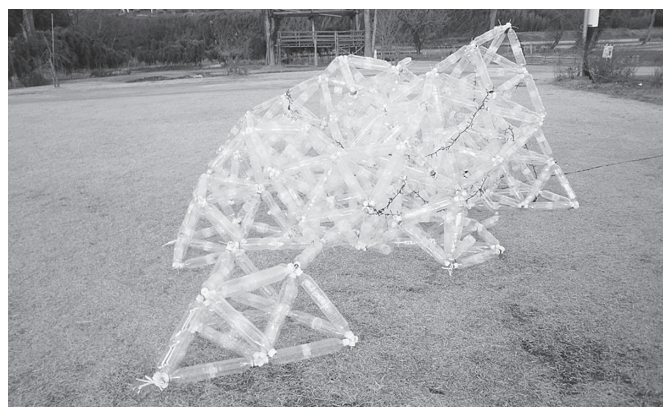
クリスマスに間に合わそうということで、12月中旬に実行しました。三好支部6名と有志の高校生4名に手伝ってもらって10名で製作しました。問題のキャップのジョイント部連結にはナイロンのインシュロック結束バンドを使用しましたが、長さ調節などが簡単ですので部品を作る時は便利でした。（がしかし・・・）パー

ツ製作からユニット製作までを近所の集会所を借りて行い、それをもって東みよし町のぶぶるパークを借りて棟上？しました。組立はわりとスムーズに組み上がり、部品製作も入れて約5時間で完成です。



ペットボトルの長さが種類によって微妙に違うのでちょっといびつなピラミッドになりましたが、実験モデルということでご愛嬌です。イルミネーションを点灯するとこれでもなかなか綺麗です。タイマーをセットして年明けまでの屋外テストの予定だったのですが・・・

製作から4日後の夜にすごい北風が吹きました・・・次の朝行ってみると予想通り？無残にも倒壊。



倒壊の原因を調べてみると、風圧でジョイントのインシュロックが切断されていたのと、ペットボトルの底同士をつないだところのテープが持たずに折れてました。クリスマスに間に合わすつもりが、結局、クリスマスまで持ちませんでした（ToT）ゞ スンマセン

今回得たデータをもとに次回はずいぶん成功させたいと考えています。 次回に続く・・・

・・・えっまだやるの？

素晴らしき棟梁たち

海部支部 和西 強次

県南部の海部郡、太平洋に沿って旧町名で言うと由岐日和佐・牟岐・海南・海部・実喰（そして高知県東洋）とみなさんご存じのとおり海のレジャーで知られている地域です。磯釣りにサーフィンにダイビングに、これからの季節は遊び心をくすぐられるフィールドが広がる、風光明媚な所です。

そんな海のイメージが強い海部郡ですが、流れの美しい川も多くあります。その代表と言えやはり海部川です。アユ釣りの時期には県内外から太公望が大勢訪れ、遊魚券無視の鵜やサギと熱いバトルを繰り広げています。そんな清流海部川の流域の豊かな山々には、良質の木材が育ち古から地域の産業を支えてきました。その当時の海部川河口の町、奥浦は県内外の木材買付の商人たちでにぎわいをみせていて郡内でも有名な歓楽街だったようです。



現在は、他の林業同様に輸入木材におされ衰退していますが林業家の方々の地道な管理で良質の木材が育ち伐り出されています。

その良質な木材を使い、昔の大工棟梁は漁村型住宅、農村型住宅、店舗併用住宅、社寺と地域や用途によって違うものを建ててきました。現在も当時の佇まいのままの建物が多数残っています。

建築士会海部支部はそんなバックグラウンドがあるからでしょうか、会員の大半が大工職人で県中央の支部とは少し違うカラーのようで、そのため過疎地の建築業の現在の課題である高齢化後継者不足にもろに直面していて2000年には103名だった会員が昨年2010年では49名に、

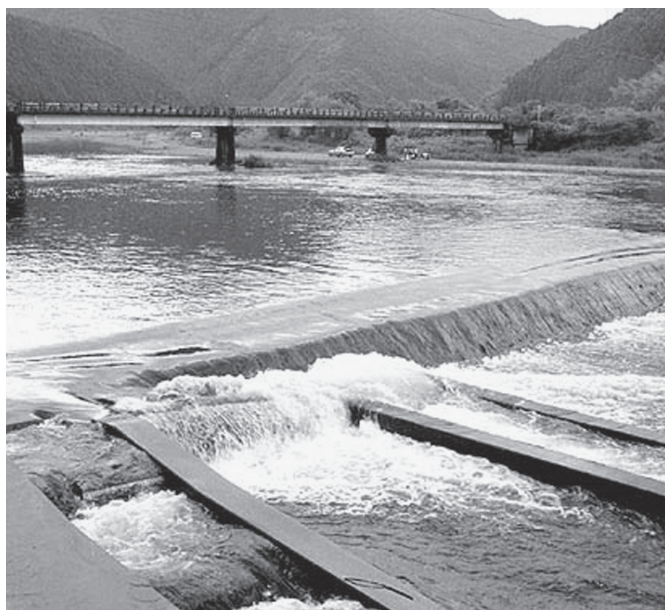
激減していてこれから10年後はどうなっているか考えると怖くなり海部支部は絶滅危惧種として申請して徳島県建築士会のレッドデータブックに掲載してもらいたいと思っています。しかし、ここからが本題です。

海部支部からは徳島県木造住宅推進協議会事業「あっぱれ棟梁コンクール」にて5名の棟梁が受賞、県知事表彰されています。どなたもすばらしい大工棟梁で海部支部の自慢であり誇りです。

昨年度受賞された、木内繁一さんも高い技術を持つ大工棟梁でいて耐震診断員としてもご活躍されています。また、地元中学校で長年「ふれあい体験授業」で木工授業の講師としても地域に貢献されていて、「職人は一生勉強」と昔から言われる通り、それを地でいく素晴らしき棟梁です。この記事を書いている私も大工ですが、身近にこの様な方々がいることは幸運だと思いますし良い目標です。

最近の大工仕事は住宅を安くお施主さんに提供する様にと構造材から内装材まで組み立てて設置する組立大工と言われる内容の仕事が一般化していますが、海部支部のあっぱれ棟梁の皆様方を目標にどこまで出来るか分からないけれど大工手刻みで仕事の見える仕事を続けていきたいと思っています。理想では子供を大きく出来ないと、うちのおかあちゃんに叱咤されそうですが・・・。

海部支部の自慢であり誇りであるあっぱれ棟梁の皆様方と共に会員の減少に歯止めをかけて支部を盛り上げていきたいものです。



— 今、できること —

徳島支部 佐々木才子

「震災の深淵を越えたつもりの饒舌は、言葉の瓦礫にすぎない」の一文は、心をゆする。

「・・・言葉より、金をくれ」、子役の口からそんなセリフを発するドラマがあったと思い、今、建築士として、いや、その前に人として、何が出来るか、何をすればいいかと、自分に問いかけている。

明日、大阪から盲導犬の引退犬が帰ってくる。パピーウォーカーとして初めて育て送り出した、ゴールデン犬だ。大きな役目を終え、子犬の時に育った徳島の地を、空を「終の棲家」とし帰って来る。ボロボロになって帰って来る。9年ぶりの対面である。覚えていてくれるだろうか。不安と期待を入り混ぜ、待っている。

思えば、9年前の夏、明石海峡大橋を渡り、生駒山の中腹に在る、関西の盲導犬訓練所へ、誕生して1ヶ月余の子犬をあずかりに行った。訓練士さんに注意事項を聞くと、「しからなくてください。どんなイタズラをしても決してしからなくて、やさしく見てやってください。大事に愛してやってください。そうして、子犬の心に、“人って、人間って、どうしてこんなにやさしいの”という気持ちを育ててください。その事はずっと心に刻まれ、これからのどんな厳しい訓練にも耐えていくことが出来るのです」とお話くださり、「訓練中の姿は決して見せることはありません」とキッパリ言われた事も思い出す。厳しい訓練、試練を越え、盲導犬としてのつとめを終え、菜の花に桜咲く春、帰って来る。

東日本大震災で、底知れぬ被害を蒙り、行方の知れぬ人達の安否確認がままならぬ状況を聞くに、情報網の混

乱で1週間が過ぎ、2週間が過ぎ、随分と長い時間待った。その間に・・・子犬だけを抱え、自分の物は何も持たず難を逃れたパピーウォーカーさん・・・のしらせに胸打たれつつ、4月になって、やっと連絡をいただいた。

皆無事、主も犬も、全員・全犬、避難していると聞き、“奇跡だ”

この未曾有の大災害に、ひとりの人も、一頭の犬も難にあわなかったのだ。主は犬を、犬は主を守り、庇い、地震から津波から、互いを思いながら逃れた様は想像すら出来ない。神も仏も、天も地も、無情に思うところの闇に、一条の光を見た思いがした。

震災の地、宮城で10頭、福島13頭、岩手19頭、我が徳島6頭、全国で1045頭の盲導犬が、日夜、過酷な場で、環境で、骨身をけずり、人のために働いている。盲導犬の寿命は短い。それを思うと、せつなくて、つらい。せめて余生をのんびりと穏やかに生きて、と願う。でも、時折、ハーネスを付けて仕事をしている頃に返ると聞く。訓練とは酷である。

“漂流犬が飼い主の元へ”の明るいニュースを聞く反面、己に利を引くことだけを考えている人もいる。なげかわしいことだ。

「その使い方を知るまで富者の財産をほめてはならぬ」 (ソクラテス)

ソフトバンクの孫社長や、石川遼君には、とてもとても及ばないし、富者でもないが、今日食べる物はある。チリも積もれば、だ。さあ、行ってこよう。



東北関東大震災義援金募金箱の設置

3月11日に発生した東日本大震災につきまして、被災された方々、ご家族の皆様、心からお見舞いを申し上げます。

(社)徳島県建築士会では、今回の地震により被災された方々に対して、義援金の受付を行います。

(社)徳島県建築士会事務局受付カウンターに募金箱を設置しております。ご寄付いただいた義援金は、日本赤十字社を通じて、全額被災地へ寄付いたします。

皆様のご協力をお願いいたします。

(社)徳島県建築士会会長 佐藤幸好・役員一同

●士会だよりー本部●

平成23年度建築士会通常総会のご案内

- ・日時 平成23年5月21日(土) 14:30～
- ・場所 徳島県建設センター6F 徳島市富田浜2-10

●士会だよりー徳島支部●

平成23年度建築士会徳島支部通常総会のご案内

- ・日時 平成23年5月14日(土) 15:00～
- ・場所 徳島県建設センター6F 徳島市富田浜2-10

●士会だよりー本部●

講習会のご案内

5月1日施行の「建築確認手続き等の運用改善(第二弾)及び規制改革等の要望への対応」について

と き 平成23年7月28日(木)

ところ 建設センター7階

受講料 会員2,000円 一般5,000円

●士会だよりー本部●

定期講習のお知らせ

◆第2期定期講習

講習日 平成23年9月21日(水)

場 所 徳島県建設センター

定 員 150名 (定員になり次第締め切ります)

申込受付 7月頃の予定

受付場所・問合せ (社)徳島県建築士会

TEL 088-653-7570 FAX 088-624-1710

●士会だよりー本部●

専攻建築士の申請及び更新について

- ・受付期間 平成23年5月16日(月)～6月30日(木)

建築士会本部行事案内 平成23年

5月		6月	
2日 一日会	(士会会議室)	1日 一日会	(士会会議室)
9～13日 一級建築士試験受付	(〃)	3日 常任理事会	(建設センター3F)
11日 建築相談	(〃)	8日 建築相談	(士会会議室)
14日 徳島支部総会	(建設センター6F)	8日 アーバン研	(〃)
18日 建築相談	(士会会議室)	9日 委託業務検討委員会	(〃)
20日 まち研	(〃)	11日 二級製図早期講習	(〃)
21日 本部総会	(建設センター6F)	12日 建築士定期講習	(建設センター7F)
		15日 建築相談	(士会会議室)
		16・17日 中四国ブロック会議	(愛媛)
		17日 まち研	(士会会議室)
		22日 総務委員会	(〃)

- ・場 所 建築士会事務局 (郵送可)

尚、平成23年度の申請及び更新書式については、5月12日(木)より士会事務局にて配布、又は、士会HPよりダウンロード出来ます。

●行政だよりー徳島市●

徳島市の行政組織が変わりました

行政組織の改編により、建築指導課および公共建築課が4月1日に新設されました。

[建築指導課]

建築確認や開発許可の審査指導業務などの建築規制行政を所管

[公共建築課]

庁舎や市営住宅、教育施設など市有施設の建築・維持業務を所管

また、建築課の廃止により、都市デザイン室で行っていた景観まちづくりおよびユニバーサル条例業務は、都市政策課に移管されました。

●行政だよりー徳島市●

人事異動のお知らせ

4月の人事異動により下記の者が着任しました。

建築指導課長	濱 政則
建築指導課長補佐(建築主事)	森井 啓作
建築指導課長補佐	仲野 義則
指導担当	岩本 雅三
審査担当(建築主事)	堀 正人
開発担当	石本 孝明

編集後記

◆県庁や市役所の建築職員も被災地に派遣され、今は応急仮設住宅の建設などに従事しています。ホテルでは風呂にも入れるそうです。(最初に派遣された連中は水シャワーしていた) (ノーリツ号)

◆首と肩がパンパンっす! (パン太郎)

◆私も元気ががんばる。 (ぺぺい)

◆みなさん地震対策は行っていますか? (酎西)

◆Kさん原稿消去してごめんなさい。そしてI氏原稿經由ありがとうございます (ひとはたうさぎ)